

# 2023年度事業報告

## I. 概要

2023年度の住宅着工は、持家、貸家、分譲住宅いずれも減少し、全体では前年度比7.0%減の80万戸となった。また、世界情勢の激変等による資材・エネルギーコスト等の高騰などにより、2023年度も住宅部品の価格改定を余儀なくされた。

住宅施策においては、2050年カーボンニュートラル実現に向けて改正建築物省エネ法が25年度から施行され、全ての新築住宅に省エネ基準への適合が義務化される。さらに、30年までには適合すべき省エネ基準がZEH(ゼロエネルギーハウス)水準に引き上げられる。また、国土交通省・経済産業省・環境省の3省連携による「住宅省エネ2024キャンペーン」が、住宅・建築物の省エネ対策として前年度から引き継いで実施され、「子育てエコホーム支援事業」をはじめとした支援制度により高効率給湯器、高断熱サッシなど省エネ住宅部品の普及の加速化が図られている。

これらの動きを踏まえつつ、「良質な住宅部品の供給・普及」「優良住宅ストック社会実現に向けた貢献」という当協会(ALIA)のミッション遂行に向け、中期活動計画(2020~2025年度)で掲げた三つの重点項目に、2020年の「住宅部品×SDGs宣言」を踏まえたSDGs達成への貢献を加えた四つの重点項目を中心として、事業活動が社会課題の解決や住宅産業の持続的発展に寄与することを意識しながら、(一財)ベターリビング(以下「BL」)をはじめとする関係団体との密接な連携の下、部会・委員会等において、積極的な事業活動を展開した。また、事業活動の効率化、等のため、サーバー・電話回線等の事務所インフラ改善を行うとともに、部会・委員会等のあり方や収益増の方策についての検討を進めた。

## II. 主要活動事項

### 1. 良質な住宅部品の供給・普及

#### (1) 環境・健康に配慮した住宅部品の供給・普及

[SDGs 目標：3、6、7、12、13、14、15]

- ① 国土交通省、経済産業省、環境省3省連携による住宅省エネ2023、2024キャンペーンの各事業、「住宅エコリフォーム推進事業」などの住宅の省エネ化に関する国の支援制度等について、情報収集と会員への共有を図った。
- ② 断熱性能に優れた外皮仕様について、工務店や一般消費者への普及を進めるためのセミナーを開催(2月9日)するとともに消費者向けツールを作成した。
- ③ 開口部の熱性能評価プログラム「WindEye」について、操作性向上や、性能から商品等を検索する「逆引き計算機能」の機能向上・充実を図った。
- ④ 住宅の良好な温熱環境と健康に関して、「健康と入浴」をテーマに、入浴の効果や入浴法に関する事業者の研究結果を紹介する講演会を開催(1月23日)するなど各種研究等を行った。
- ⑤ 自動浴槽洗浄システム、エレベーター、安全合わせガラス、窓用シャッター、シ

ャワーユニットなどの BL-bs 部品を含む BL 部品の認定基準の制定・改正に協力し、会員への迅速適切な情報提供や会員各社の意見の取りまとめを行った。

- ⑥ BL 部品の普及促進に努めるとともに、ユーザーへの BL 部品の認知度向上を図った。

## (2) 住宅・住宅部品に関わる新たな課題への対応 [SDGs 目標：3、8、9、12]

- ① 省エネ、子育て支援、働き方改革などの課題に対応するための住宅部品のあり方について、(一社)住宅生産団体連合会(以下「住団連」)、(一社)住宅リフォーム推進協議会(以下「リ推協」)、など関係団体と連携するなどにより情報収集、調査を実施した。
- ② 2050年カーボンニュートラル実現に向けた ZEH 住宅の普及等各種施策の認知度や課題、断熱リフォームの加速につながる決め手やプロセスなど、住宅部品と消費者の関わりについて調査・研究を行った。
- ③ グリーントランスフォーメーションや IoT 等の新たな技術・サービスに関し、国や関係機関、会員各社の取り組みに関する情報収集、調査を実施した。

## 2. 「住宅部品の点検」を核とした優良住宅ストック社会実現への貢献

### (1) 安全・安心な住宅部品のあり方の追求 [SDGs 目標：12]

- ① 故障時の危険度の大小や点検のしやすさ等の観点からの住宅部品の類型化(2021年度実施)を踏まえ、消費者の行動変容につなげる方策を検討した。
- ② 居住者における点検の実態調査(2022年度実施)を踏まえ、引き渡し時の効果的な情報提供、居住者と事業者との関係強化を推進する施策の検討を行った。

### (2) 適切な維持管理(点検)からリフォームへつなげる仕組みの構築

[SDGs 目標：8、11、12]

- ① 「住宅部品点検の日」の活動の一環として、「点検から消費者が快適なリフォームへ～健康的な暮らしを目指して～」をテーマに、第12回シンポジウムをWEB配信で開催した(10月4日開催、234名が聴講)。
- ② 居住者の住宅部品取替えのきっかけから決断までの経緯の調査や、点検実施の提案からリフォームに繋げるツールの提案に向けた検討などを実施した。
- ③ 「自分で点検!ハンドブック」について、スマホ対応版を公開し、ネット検索利用促進を図るとともに広範に頒布した。
- ④ 点検啓発キャラクター「ジュウテンジャー」ぬりえキャンペーンを実施した(応募総数136件)
- ⑤ 住団連、リ推協、(一社)ベターライフリフォーム協会等の関係委員会に参画し、リフォーム推進に関する情報収集と会員への共有を行った。

## 3. SDGs 達成への貢献 [SDGs 目標：全般]

社会問題分野での SDGs 達成に貢献するための「ALIA こども応援プロジェクト」について、「こども食堂」への支援として会員企業の商品、サービス等の無償提供をスタートさせた。

- ① 本格的な支援の開始

「こども食堂」への商品等提供について、2022年度の先行モデルケースに続き、全国での本格的な支援を実施し、累計141団体への支援を実現した。2025年度まで3年間実施する予定としており、今回の実績を踏まえ、支援内容の充実など支援活動を一層拡大するための検討を行った。

#### ② 積極的な情報発信

- ・ 第1弾としての募集開始日の5月15日に、こども家庭庁記者クラブにおいて瀬戸会長により、こども家庭庁の吉住支援局長・むすびえ湯浅理事長同席のもと記者会見を開催し、プロジェクト概要と支援内容について発表した。
- ・ ALIAのWEBサイトに、こども応援プロジェクトおよび住宅部品SDGs宣言周知のための専用ページを公開した。

### 4. 情報発信・政策提言・提案の強化 [SDGs 目標：17]

#### ① 国土交通省との意見交換の場の設置を通じた政策提言の強化

住宅局幹部との意見交換の場を設置し、市場動向情報の提供、国施策への政策提言、予算・税制要望や、子育て支援・配慮に係る会員各社の住宅部品の提示、提案等を実施した(7月27日)。

#### ② 機関誌(ALIA NEWS)を年4回発刊した。特集では、SDGs、省エネリフォーム、部品の長期使用と安全点検など重要なテーマを取り上げるとともに、ALIAの事業活動、住宅業界や会員の動向などの発信に努めた。

#### ③ タイムリーな情報発信のため、月1回のメールマガジンの配信充実に努めるとともに、住宅部品基礎知識サイト「アメニティCafe」と住宅部品点検スペシャルサイト「ジュウテン」について、YouTubeの活用を含め、内容を充実した。

#### ④ 「2023年版住宅部品統計ハンドブック」を編集・発行した。

#### ⑤ 研究成果の会員等への提供等のため、事業成果物を発行するとともに、BLと合同で「BL・ALIA研究成果合同発表会」を開催した(7月28日)。

#### ⑥ 住団連・リ推協など関連諸団体との連携活動を継続し、国への制度改善の提案、調査研究等を実施した。

#### ⑦ 情報発信の一環として、ジャパンホーム&ビルディングショー2023(@東京ビックサイト)において「良いものを作って、きちんと手入れして、長く大切に使う社会の実現!」と題するセミナーを開催した(11月16日)。

#### ⑧ 住宅関連の法制度、補助、融資、税制等に関し、関連諸団体と連携しつつ迅速・的確な情報収集と会員への情報提供を行った。

### 5. 収支構造の改善

#### ① 事業活動の効率化・合理化に向けた部会・委員会等のあり方や収益増の方策について検討に着手(本格検討のためのWG設置)し、組織見直しとして「アルミサッシ委員会」と「断熱型サッシ委員会」を統合し「サッシ委員会」を設けた。

#### ② ALIAの位置づけの再定義の一環として、国土交通省に対する政策提言(情報提供、意見交換、提案)を実施した。(再掲)

### III. 事業企画部会 [SDGs 目標：全般]

#### (1) 国土交通省への政策提言の場の設置の調整とともに、会員からの意見・情報のと

- りまとめを行い、7月27日に国土交通省に対して、政策提言、予算・税制要望、子育て支援・配慮に係る会員各社の住宅部品の提示、提案、また意見交換を実施した。
- (2) 事業計画や予算など、運営委員会への付議事項について検討を行った。
  - (3) 委員会の活動状況を踏まえ効率的な運営を図るため、「アルミサッシ委員会」と「断熱型サッシ委員会」を統合し「サッシ委員会」を設けた。
  - (4) 収益増の方策についての検討を行った。
  - (5) 住生活関連の法令・制度、助成策、金融政策、税制等に関し、情報の収集と対応方針の検討を行った。

#### IV. 広報部会〔SDGs 目標：全般〕

国策等情報の収集とタイムリーな発信を行うとともに、ALIA 事業の認知度向上を目指し、各部会・委員会と効率的に連携した広報活動を進めた。

- ① ALIA NEWS の発行（年4回）
- ② WEB サイトの充実・活用
- ③ 広報イベントの実施
- ④ 研究成果発表会の開催

また、SDGs 推進部会と連携し、「こども応援プロジェクト」について、5月に第1弾募集にあわせて、こども家庭庁・NPO 法人「むすびえ」と合同で記者会見を実施、10月に第2弾募集について関係省庁記者クラブ等対象に報道発表を行った。

#### 【ALIA NEWS 編集委員会】〔SDGs 目標：17〕

ALIA NEWS を季刊で4回編集・発行した。

- ① 春号（VOL. 179：2023年5月20日発行）：特集「SDGs と住宅産業」
- ② 夏号（Vol. 180：2023年8月10日発行）：特集「住宅の省エネとリフォーム」
- ③ 秋号（Vol. 181：2023年11月20日発行）：特集「住宅部品の長期使用と安全点検」
- ④ 新年号（Vol. 182：2024年1月20日発行）：特集「2024年を迎えて」

特集テーマのほか、巻頭言、ALIA 及びBL の活動紹介、行政の動き、会員各社及び団体の事業活動や新技術・新製品紹介等を掲載した。

#### 【WEB 企画・管理委員会】〔SDGs 目標：17〕

会員相互の理解や交流、また会員内外への情報提供を充実させるため、担当部会等と連携してWEB サイト及び定期メールマガジンの企画、管理、運営を行った。

- ① ALIA の主要行事や活動内容の発信として、2023 年度理事会・総会報告、「BL・ALIA 研究成果合同発表会」開催報告、「アメニティ Cafe」更新、「第12回住宅部品点検の日シンポジウム」開催報告、「ALIA こども応援プロジェクト」開始のお知らせ、プレスリリース配信サービス「PR TIMES」を活用したイベント告知（住宅部品点検シンポジウム、ジュウテンジャーぬりえキャンペーン）などを行った。
- ② WEB サイトの充実として、「自分で点検！ハンドブック」WEB コンテンツ版の公開、推奨交換時期 WEB ページの公開、SDGs 貢献活動（こども応援プロジェクト）サイトの開設などを行った。
- ③ ALIA の活動を紹介する月一回の定期メールマガジンを企画・配信した。

## 【イベントWG】〔SDGs 目標：12、17〕

- (1) 「第12回住宅部品点検の日シンポジウム」開催等（住宅部品点検推進部会と連携）
  - ① 日時：2023年10月4日（水）14:00～16:20（BL会議室からWEB配信）
  - ② テーマ：「居住者による住宅部品の点検を通じた、アフター関係性強化！  
～消費者調査からみたビジネスの可能性～」
  - ③ プログラム
    - 1) ALIA 調査報告「居住者による住宅建材・設備の点検に関する実態調査」  
住宅部品点検推進部会 点検普及ビルダー対応委員会 委員長 松本 大司
    - 2) パネルディスカッション
      - ・テーマ「点検は顧客接点強化、リフォームに繋がりえるか？」
      - ・メンバー：明治大学 向殿政男名誉教授、リフォーム産業新聞社 取締役 福田善紀氏、参創ハウテック 取締役 営業開発部長 尾崎誠一氏、ALIA 松本 大司
  - ④ 後援：国土交通省等5団体、協賛：BL等40団体
  - ⑤ 参加者：234名（会場の登壇者・スタッフを含む、1アドレスは1名とカウント）
- (2) 「BL・ALIA 研究成果合同発表会」の運営
  - ① 日時：2022年7月26日14:00～17:20（WEB併用）
  - ② 発表テーマ：BL 2テーマ、ALIA 2テーマ（カーボンニュートラルに向けての消費者意識調査、既存戸建住宅が選択肢に入るための魅力点調査の結果報告）
  - ③ 講演「SDGsを起点とした住宅・建築産業の変革とは」（法政大学デザイン工学部 建築学科 川久保 俊 教授）
  - ④ 参加者：130名

## V. 専門部会

### 1. 消費者・制度部会〔SDGs 目標：8、9、12、17〕

- (1) 住宅部品と消費者との係りの調査・研究
  - ① 調査概要
    - ・居住者の住宅部品取替えを検討するきっかけから決断までの経緯について、故障、老朽化以外のきっかけ、得た情報等の視点から調査
  - ② 調査結果
    - ・取替え実施者においては、ライフステージの変化など“老朽化以外”のきっかけが、住宅部品の利便性や快適性向上の意識を醸成していることが明らかになった。
- (2) 省エネ適判判定結果の手続きの効率化、既存不適格建築物の増築等に係る規制の合理化等の建築行政・制度情報について、委員会内で共有した。

### 2. 環境部会〔SDGs 目標：3、7、11、12、13、14、17〕

- (1) 調査研究事業
  - ① テーマ：「2050年カーボンニュートラルに向けた住宅分野での消費者の課題把握調査」
  - ② 調査概要
    - ・住宅購入者に対し、購入に際して受けたZEH住宅に関する説明と、消費者の気

- 持ちの変化を調査し、ZEH 住宅の有効な訴求方法、販売促進の方向性を検討した。
- ・ ZEH 住宅は快適性、光熱費削減、健康面での安心などが魅力として捉えられている一方、認知度がまだ低いこと、太陽光パネルに対するネガティブイメージが大きい等が課題に挙げられた。
- (2) 国や関係団体からの情報として、住宅省エネ 2023 キャンペーン、住宅トップランナー制度拡充(分譲マンション追加)、住宅ローン減税における省エネ性能の必須化、花粉症対策、石綿暴露防止対策会議、環境省・ZEH 支援事業の見直しについてなどの情報を収集、共有した。
  - (3) 2022 年度調査(2050 年カーボンニュートラルに向けての消費者の意識調査)の結果概要を、BL・ALIA 研究成果合同発表会(7 月 26 日)で報告した。

### 3. リフォーム・施工部会〔SDGs 目標：8、11、12、17〕

- (1) 住団連の住宅ストック委員会・研究会及び技能者問題委員会に参加し、買取再販の深堀調査、部分断熱についての検討、石綿対応状況調査、建設キャリアアップシステムの取組み、働き方改革等に関する情報共有を行った。
- (2) リ推協の市場環境整備委員会・税制施策 WG、広報委員会・情報発信 WG 及び新事業モデル WG に参加し、2023 年度税制・予算要望、住宅リフォーム実態調査、ホームページからの発信検討、リフォーム事業店の活動調査等について情報共有等を行った。
- (3) 2025 年度に向けたリフォーム関連の予算・制度改正等要望をとりまとめ、7 件の要望を提出した(ALIA 全体で 8 件)。
- (4) 調査研究事業の実施
  - ① テーマ名：「断熱リフォーム普及に関する課題把握調査」
  - ② 調査概要
    - ・ 戸建住宅の断熱省エネ性能向上に向けたリフォーム工事について、実施しようと思った決め手、実施までのプロセスや情報収集の実態、実施後の評価等について調査を実施し、拡大に向けた資料とした。

### 4. 住宅部品点検推進部会〔SDGs 目標：11、12、17〕

- (1) 点検の必要性の周知・点検普及啓発活動として、①セミナーや研修会を通じて、住宅事業者や居住者に対して「自分で点検！ハンドブック」「住宅部品 経年劣化スタディブック」の説明、普及の実施、②「自分で点検！ハンドブック」をスマホで確認できるよう WEB 化、③「ジュウテンジャーぬりえキャンペーン」の実施などを行った。
- (2) 第 12 回「住宅部品点検の日シンポジウム」について、今回はターゲットを居住者から住宅事業者に移し、テーマを「居住者による住宅部品の点検を通じた、アフター関係性強化！～消費者調査からみたビジネスの可能性～」として 10 月 4 日に実施した。今後は関係団体と連携を築き、住宅事業者が要望する有効なコンテンツを拡充する検討に繋げていく。
- (3) 点検のあり方を検討し、有用な情報発信・提案を行うため、居住者の点検行動変容を促すきっかけとする、住宅事業者向け「住宅部位・部材別点検事象対応一覧表」製作の検討を行った。

### 【点検普及ビルダー対応委員会】〔SDGs 目標：11、12〕

- (1) 「自分で点検！ハンドブック」及び「住宅部品経年劣化スタディブック」を用いたビルダーへの更なる普及啓発策の検討・実施
  - ① 関係団体と調整、連携したセミナーの計画・実施
    - ・日本ツーバイフォー建築協会  
「顧客と繋がりリフォームに繋がる住宅部品経年劣化スタディ」  
実施日・参加人数：5月26日（30名）、3月26日（53名）
    - ・ベターライフリフォーム協会  
「顧客関係強化に役立つ経年劣化情報セミナー」  
実施日：12月15日（24名）
- (2) 点検普及に向けた実態調査・施策検討  
昨年度実態調査の分析から「事業者を通じての新築、リフォーム引き渡し時の居住者への情報提供」、「居住者と事業者との関係強化」の2つを目的とする施策の検討を行った。これを基に2024年度以降に住宅事業者団体と連携しビルダーでの成功事例をつくる活動を行う予定。
- (3) 啓発ツールの販売実績
  - ・「自分で点検！ハンドブック」：4374部（新規21社、レポート4社）
  - ・「住宅部品経年劣化スタディブック」：215部（新規7社）

### 【点検普及消費者対応委員会】〔SDGs 目標：11、12〕

- (1) 消費者関連団体と連携した消費者への普及啓発活動
  - ① (公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）東日本支部
    - ・住宅部品ショールーム研修会を新宿にて開催。
    - ・開催日：2023年11月6日（月）
    - ・研修内容：SR見学、住宅部品の経年劣化と点検の重要性説明、ALIA住宅部品点検ツールや点検動画の紹介、意見交換「消費者への点検情報の伝達展開策など」
- (2) 消費者啓発のための「ジュウテンジャーぬりえキャンペーン」を企画・実施し、ぬりえ作品を「ジュウテン」サイトに掲載した（ぬり絵台紙は2種類）。
  - ① 対象者：幼・保育園児～小学生（日本国内）
  - ② 公募期間：2023年9月15日～11月15日
  - ③ 応募総数136件（2022年度比1.6倍）

### 【業界連携委員会】〔SDGs 目標：11、12、17〕

- (1) 普及・啓発活動の継続・発展  
「住宅部品点検の日」シンポジウムの新たな協賛団体の獲得に向けた活動の結果、（一社）日本エクステリア工業会が加わった。
- (2) 委員会活動の新たな展開や活動の拡がりを目指した取組み
  - ① これまでの活動内容や経緯等を踏まえ、今後の新たな活動の展開や拡がりを目指した取組みについて検討した。

- ② 「ジュウテン」サイトについて、今回新たに3団体（ガス警報器工業会、（一社）日本サッシ協会、（一社）日本エクステリア工業会）のツールを新規掲載するとともに、掲載順序の入れ替えと一部修正を行った。
- ③ （一財）家電製品協会が「愛情点検：日々の点検と定期的な点検」推進のため作成している「愛情点検 チェックリスト」について、「自分で点検！ハンドブック」と共通する設備機器もあり、リスト記載内容の確認と今後の連携に向けた検討を開始した。

#### 【住宅部品点検研究委員会】〔SDGs 目標：11、12、17〕

- (1) 2021年度に行った住宅部品の「点検行動の分類・類型化」を踏まえて、消費者が自主的に点検する、あるいは、行動変容を起こすための働きかけについて、点検における「目的」「安全」「信頼（安定的機能維持）」などコスト面含め3つのポイントから内容の深堀りを行った。
- (2) 消費者への点検実施の提案（新点検ツールの提案等）に向けて、他団体のツールや冊子などについて、点検に関する内容の協議を行い、2024年度も引き続き調査・情報収集を行う。
- (3) 住宅部品の取替からリフォームにつなげていく視点で、点検時期や訪問時期を見極める観点などの整理、検討を行う。
- (4) 消費者団体や住宅生産者との意見交換やメーカーの消費者対応部門へのヒアリング等を行い、消費者の点検行動変容の分析を引続き行う。

#### 5. SDGs 推進部会〔SDGs 目標：1、2、3、4、5、10、11、16、17〕

会員各社とALIAの社会貢献の一層の明確化による社会的認知度の向上に向けて、各社のものづくりを通じた取組ではカバーし難い社会課題（個社・ALIA部会等で取組が進んでいない分野）を中心にALIAとしての活動を推進するため、ALIAこども応援プロジェクトによるこども食堂への本格支援を開始した。

##### (1) ALIAこども応援プロジェクト本格支援の開始

###### ① 本格支援の実施

「ALIAこども応援プロジェクト」を5月より正式にスタートさせた。2025年度まで3年間実施する予定。支援の実績については順次公表していく。

###### ② 第1弾の支援内容

5月15日～5月31日まで、会員11社から18種類の商品・サービスを、計66団体に提供する公募を行った。

全国こども食堂支援センター・むすびえを通じ募集し、延べ160団体から応募があり、むすびえにて支援先の選定を行い、計62団体への支援を実施した。

###### ③ 第2弾の支援内容

10月23日～11月6日まで、会員13社から20種類の商品・サービスを、計87団体に提供する公募を行った。

第1弾同様、全国こども食堂支援センター・むすびえを通じ募集し、延べ215団体から応募があった。むすびえにて支援先の選定を行い、計74団体への支援を実施した（2022年度の先行モデルケースを含めた累計で141団体に支援）。

###### ④ 第3弾に向けた議論・検討スタート



2024年5月公募開始に向け、準備を開始した。

(2) 積極的な情報発信

① 記者会見の開催（再掲）

5月15日にこども家庭庁記者クラブにおいて、瀬戸会長による記者会見を開催。こども家庭庁の吉住支援局長・むすびえ湯浅理事長同席のもと、「ALIA こども応援プロジェクト」の概要と第1弾の支援内容について説明した。

② SDGs への貢献活動（こども応援プロジェクト）サイトの開設

ALIAのWEBサイトに、こども応援プロジェクト概要および住宅部品SDGs宣言周知のための専用ページを公開した。2022年度実施した先行モデルケースを含め、支援内容について順次掲載（6件）した。

③ 効果的な情報発信

広報部会と連携し、今後の効果的な情報発信方法について検討を進めた。

## VI. 空間等別部会・部品別委員会

### 1. トイレルーム部会〔SDGs目標：3、6、7、8、12、17〕

#### 【温水洗浄器委員会】【洗面化粧ユニット委員会】

- (1) 「アメニティCafe」の記載について前年度の検討を基に「トイレルーム」「水栓金具」、「温水洗浄便座」の改訂を行った。
- (2) トイレルーム、洗面化粧台、水栓、キッチンのお手入れや清掃実態、住宅部品の不具合があった際の対応等について、ハウスクリーニング業者「キラッとハウス」樽川社長様、須知様の講演および参加者との間で意見交換を行った(10月23日)。

### 2. バスルーム部会〔SDGs目標：3、6、7、9、12、17〕

#### 【浴槽委員会】【浴室ユニット委員会】

- (1) BL基準作成成分科会の中に、シャワーユニットBL基準化について検討をするワーキングが設置、9、11、1月に開催され参画。
- (2) コロナ禍によりニーズが高まっている高齢者の在宅介助入浴について、介護用品分野におけるリーディングメーカーであり現在はアクティブシニア向けなど介護保険外領域の製品開発・市場開拓にも注力されているアロン化成様の講師により10月に講演会を開催し、有益な情報共有となった。
- (3) 東京都の老舗銭湯「小杉湯」と隣接するシェアスペースを有する会員制コミュニティ施設「小杉湯となり」を見学、体験し、まちにひらかれた入浴施設の経営方針など学んだ。

### 3. リビングルーム部会〔SDGs目標：11、12、15、17〕

#### 【階段・はしご段委員会】【内装システム委員会】【内装ドア委員会】

- (1) BL認定基準の改訂状況等に関して共有した。
- (2) 委員各社の商品機能や施工の周知に関するWebや動画の各社の活用に関して情報共有を行なった(年間で7社)
- (3) 5月に公布されたクリーンウッド法の改正内容について情報収集を行った。経産省で作成予定の運用ガイドラインに従って、「建材・住宅設備メーカーのためのクリーンウッド法運用ガイド」の改訂を行う。

- (4) 厚生労働省の「シックハウス（室内空気汚染）に関する検討会」にて情報収集を行った。
- (5) 「アメニティ Cafe」の内装ドア、階段・はしご段のページに、「内装建材の警告表示ガイドライン」の警告表示に沿った使用時に注意する事象を掲載した。
- (6) 「内装建材の警告表示に関するガイドライン」について、火傷の警告表示に関するピクトグラムのデザインを作成し反映、公開した。
- (7) 北九州市エコタウンセンターを見学し、家電を始めとする廃棄物の解体・リサイクルの現場を視察した。(2/16)

#### 4. キッチンルーム部会 【SDGs 目標：6、7、11、12、17】

##### 【キッチンシステム委員会】【調理用加熱機器委員会】

- (1) キッチンアンケート調査「長持ちの秘訣！キッチンのお手入れ実態調査」をWEBアンケートとして実施した。
- (2) ダスキンミュージアム（大阪府吹田市）での見学会において掃除の歴史・文化に触れた上で（株）ダスキン（戦略部・メリーメイド事業部）と情報・意見交換会を開催し、顧客への対応やスタンスなどを学び、「住宅部品点検文化の醸成」に資する選択肢としての家事代行サービス利用について見識を深めた。(1月)
- (3) BL 認定基準の改正・新設や書籍刊行などについて情報共有した。

#### 5. 住宅情報部会 【SDGs 目標：7、9、11、12、17】

傘下3委員会の個別活動を基本としつつ、必要に応じて関連した講演会、施設見学会、研修会等を企画し情報・課題を共有している。

##### 【住宅情報システム委員会】 【SDGs 目標：7、9、12】

- (1) 委員各社のIoTに関する活動実態と課題の共有や意見交換を行った。
- (2) 高齢者を中心とした住まう人にやさしい住宅情報システムのあり方を検討
- (3) （一社）日本建材・住宅設備産業協会の住宅IoT協調安全検討分科会に参画し情報収集等を行った。

##### 【テレビ共同受信機器委員会】 【SDGs 目標：9、12、17】

「新4K8K衛星放送」を受信するために必要となるBL部品を用いた3.2GHz伝送システムに関することを中心に、傘下の各WGと連携して様々な検討を行った。

- (1) 技術WG
  - ・ 既存の集合住宅を「新4K8K衛星放送」対応受信システムに改修する対応としてのBL部品認定基準の追加（4月）に協力した。
  - ・ 高出力型ブースタの利用やカスケード運用時の出力レベル配分調整、システムの簡素化等の課題解決に向けた検討を行った。
  - ・ 国土交通省の「建築設備計画基準」、「建築設備設計基準」、「公共建築工事標準仕様書」、「公共建築改修工事標準仕様書」および「公共建築設備工事標準図」、に関する改訂意見を取りまとめ提出した。
- (2) 普及WG
  - ・ 2022年度に実施した実証試験の報告書「テレビ共同受信システム機器試験報告

書一新 4K8K 衛星放送の受信設備における運用レベルの調整方法の提案」を関係団体に配布するとともに、ALIA のホームページ及び会員向けページに掲載し、BL 部品についての周知、普及を行った。

- ・ (一社) 日本 CATV 技術協会主催の施工業者を対象にした説明会で「4K8K 衛星放送の受信設備における運用レベルの調整方法の提案」をテーマに講演を実施した (2 月 27 日)。
- ・ 「アメニティ Cafe」の更新を行った。

(3) 統計 WG

- ・ BL 部品に関する出荷統計を毎月とりまとめ、今後の受信システム機器の在り方の調査・検討を行った。

**【火災・ガス警報委員会】** [SDGs 目標 : 11、12]

住宅用火災警報器設置の義務化から 10 年以上が経過し、交換時期を迎えた警報器の確実な更新が必要である。その更新に向けた施策、および火災・ガス警報器や無線式連動型住宅用火災警報器の更なる普及に向けた検討を行った。

(1) ガス警報器工業会からの情報提供、共有

- ・ ガス警報器設置マニュアル英語版 (第 8 次改訂版)
- ・ ガス警報器の効果や交換期限などの啓発を目的としたキャンペーン
- ・ パンフレット「業務用厨房で CO 中毒事故防止/業務用換気警報器の必要性」等

(2) 消防庁からの情報提供、共有

- ・ 住宅用火災警報器の設置状況等調査結果
- ・ 消防庁「住宅における電気火災に係る防火安全対策検討会」情報

(3) 各社情報提供

- ・ 能美防災㈱『仕事猫』とのコラボレーション企画第 2 弾「住宅用火災警報器“点検・交換”キャンペーン」、無線式連動型住宅用火災警報器 (CO 反応式) の紹介 他
- ・ 新コスモス電機㈱ 火災実験の見学施設「プラシオラボ」の紹介。
- ・ 矢崎 E S アルコール検知器の紹介 等

**6. 給湯・暖冷房部会** [SDGs 目標 : 3、7、8、9、11、12、13、14、17]

担当分野が広範囲に亘るため、各分野での活動は各委員会で主に実施することとし、部会では以下の活動を実施した。

(1) 講演会の開催

「健康と入浴」をテーマとして、バスクリン様から入浴の効果や入浴法に関する研究結果が紹介された (1 月 23 日)。

- ・ 参加人数 55 名 (給湯暖冷房部会、バスルーム部会の各委員会の委員、各社社員)
- ・ 参加者アンケート結果

講演内容の「湯温度と体温、ストレス解消、睡眠」について「とても参考になった」74%で最も関心が高かった。講演会全体について、「とても満足」68%、「満足」32%。

(2) 原稿執筆対応

- ① ALIA NEWS 夏号に「住宅の省エネ化に向けた高効率給湯機の最新動向」として、エコジョーズ、エネファーム、ハイブリッド給湯機、エコキュートを取り上げ。

- ② IBECs 機関誌「住宅の温熱環境と居住者の健康(仮題)」の特集号に温熱環境改善に役立つ住宅部品の最前線として、お風呂まわりの暖房設備に関し投稿。
- (3) その他、既存賃貸集合給湯省エネ事業への部会としての対応について関連する委員長と検討を行い、現時点では各委員会において国や関連団体の動向、個社の取組みの情報共有を行い、今後、必要に応じて対応等を検討・実施していく方針を共有。

### 【ガス給湯委員会】【石油給湯委員会】【ソーラーシステム委員会】

[SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17]

- (1) 国や関係機関における住宅の省エネルギー化・脱炭素化への対応
- ・ 国の審議会情報の共有と意見交換
    - 家庭・中小企業の省エネ・非化石転換施策方向性（経産省）
    - リンナイのカーボンニュートラルに向けた取り組み（経産省）
    - エネルギー小売事業者からの情報・サービス提供の方向性（経産省）
    - 省エネ基準への適合性評価ルートの合理化（国交省）
  - ・ 潜熱回収型高効率給湯器の導入促進関連の動向共有
    - 給湯省エネ 2024 キャンペーン、賃貸集合給湯省エネへの対応
    - JGKA 高効率給湯機推進 PT 情報（推進状況、課題等）
    - 国交省による潜熱回収型ガス給湯器等ドレン排水の取扱いの再通達ならびにその後の対応
    - BL による取替時の導入促進に関する説明会、作成パンフレットの共有
  - ・ グローバルな脱炭素化イニシアティブの動向とその対応の共有
    - SBT 建築物セクターガイダンスへのパブコメ対応
- (2) 優良住宅部品の普及促進等
- ・ (一社)日本建材・住宅設備産業協会「協調安全検討分科会」の情報共有
    - 人と IoT 住宅との協調安全に関する国際標準化（経産省委託事業）
- (3) 良質な住宅ストックの形成、リフォーム事業の拡大
- ・ BL「人生 100 年対応住宅部品研究会」の今後の活動計画等の共有 等

### 【電気給湯委員会】 [SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17]

- (1) 住宅の省エネ基準適合義務化、ZEH 普及などの省エネ性能向上に関する施策や給湯機器の省エネ関連基準（建築物省エネ法）の見直しなど国の動向について情報共有化を行い、対応機器の性能・機能の向上及び高効率給湯機の普及拡大に向けた取組み等について意見交換を図った。また住宅設備・建材の物流 2024 年問題の取組みについて共有した。
- (2) 情報発信
- ・ ALIA NEWS 夏号に「住宅の省エネ化に向けた高効率給湯機の最新動向」として「エコキュートの製品動向と最新動向」を投稿した。
  - ・ 「アメニティ Cafe」の電機給湯器の項について見直しを行い改訂を行った。

### 【暖冷房システム委員会】 [SDGs 目標：3、7、9、11、12、13、14、17]

- (1) 国の動向に関する情報共有
- こどもエコすまいる支援事業、建築物省エネ法、ZEH 関連施策、子育てエコホーム

支援事業、住宅の省エネリフォームの支援強化、省エネルギー小委員会の論点などについて情報共有を行った。

(2) BL 関連情報の共有

BL 認定基準の改正関連の情報、またメーカーへの床暖房ユニットの評価方法のヒアリングに係る情報の共有を行った。

(3) ALIA 関連情報の共有

2050 年カーボンニュートラルに向けての消費者の意識調査、こども応援プロジェクトの情報共有を行った。

(4) その他

- ・ IBECs 会報へ「温熱環境改善に役立つ住宅部品の最前線 温水式浴室暖房乾燥機」を、ALIA NEWS 夏号の省エネ給湯・暖房機器に関する原稿として「ハイブリッド給湯機の最新動向」を執筆
- ・ 奈良県奈良市「大和ハウス総合研究所」見学
- ・ 委員会内でカーボンニュートラルの取り組みなど相互理解と情報交換を実施

## 7. 開口部会 [SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、15、17]

アルミサッシ委員会、断熱サッシ委員会と合同での成果発表会の開催の他、傘下の各委員会、関連する各部会・委員会及び BL、(一社)日本サッシ協会の活動情報を共有し、当部会の活動に対する方向性や課題等を共有した。

### 【スチール部品委員会】 [SDGs 目標：7、12]

- (1) BL 関連情報及び各専門部会・委員会の活動情報を共有した。
- (2) BL 部品の普及促進への協力として、都営住宅仕様の郵便受口高さ変更依頼に対して、情報共有と意見交換を行った。
- (3) 「アメニティ Cafe」について、マンションドア（改修用玄関ドア・スマートロック等）情報提供の場として、より有効な情報に重点を置き掲載する方針を固め、次年度から具体的な意見交換を進めていく。

### 【手すりユニット委員会】【補助手すり委員会】 [SDGs 目標：11、12、17]

- (1) 良質な住宅部品の供給・普及に向けた対応として、BL 認定基準に関し、「隔板」の基準制定、「墜落防止手すり」、「歩行・動作補助手すり」の基準改正などの情報の共有や協議、また普及を行った。
- (2) 墜落防止手すりを長期的に使用できる仕様や施工方法などの対策が行われる製品の検討と対応について、BL と連携して検討を継続することとした。
- (3) 特定住宅部品にかかる取替工事管理者の指定講習会の対応を BL と連携して行った。

### 【断熱型サッシ委員会】 [SDGs 目標：3、7、8、11、12、13、14、15、17]

- (1) 建築物省エネ法・ZEH など省エネ性能向上、またリフォームの拡大に関する施策の情報の共有を行った。
- (2) 「アメニティ Cafe」からユーザーが望む情報を発信できるよう、掲載内容の見直し検討を行った。

- (3) 「WindEye」のバージョンアップ情報及び簡易計算版・WEP 版開発の検討状況等や、「住宅部品点検の日」活動の推進に向けた情報の共有を行った。

**【アルミサッシ委員会】** [SDGs 目標：3、7、8、9、11、12、13、14、17]

- (1) ①アルミサッシ生産での CO2 排出量の算出と評価、②防災・レジリエンス対応（防災シャッター、止水板、防災安全ガラスなど）、③窓・ドアの断熱改修（外窓交換、内窓設置などの省エネ効果・課題）などに関する情報収集を行い、開口部会と合同で活動報告会を開催し、情報共有を行った。
- (2) 省エネ性能向上に関する国の施策及び住宅の温熱環境に関する情報や、開口部会の各委員会や関連する専門部会の活動内容、（一社）日本サッシ協会のビルサッシ委員会の活動内容及び技術情報、BL 認定基準の制定・改正などの情報を収集・共有した。
- (3) 移動委員会として、10/27 に北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所建築性能試験センター旭川オフィスを訪問し情報収集を行った。

**8. 外皮部会** [SDGs 目標：3、7、11、12、13、14、17]

- (1) 高性能な外皮仕様の普及啓発
- (2) セミナー・勉強会の開催
- 1) 工務店・設計事務所向けのセミナーを2月9日に開催し、現地37名、WEB91名が聴講した。
- セミナーⅠ：『2030年以降に向けて目指すべき住宅のあり方とは？』～LCCMとデマンドリスポンス～  
エコワークス(株) 代表取締役社長 小山貴史様
- セミナーⅡ：『住宅の脱炭素化に関する北九州市の取組』  
北九州市 建築都市局住宅部住宅計画課長 石原賢一様
- セミナーⅢ：『【フラット35】金利引下げ制度のご紹介』  
住宅金融支援機構 地域連携グループ推進役 大迫亘様
- ・外皮部会報告 推奨外皮性能の解説（各委員）
- 2) （一社）日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）と連携し5月17日にNACS様の相談員、会員向けの公開講座で講師としてALIA外皮部会委員が講演を行った。
- テーマ：「住まいの断熱」～カーボンニュートラル社会の実現に向けて～  
当日参加：76名、別途アーカイブ映像も一定期間提供。
- ② 消費者向けツールの作成
- これまで生産者、設計事務所向けに作成した「外皮ってなに？」パンフレットと説明用パワーポイント資料をベースに、消費者向けツールとしてテーマ毎に内容の追加・再構成をおこなった。一般向けを意識し内容を簡易化し、窓リノベなど補助金施策についても盛り込んだ。
- (2) ALIA NEWS 夏号に断熱リフォームをテーマに執筆を担当した。
- (3) 運営委員会や住団連などの資料を元に、国や地方公共団体などの関連施策などの情報を共有した。
- (4) 移動委員会として、11月10日に（株）日本の窓（十和田市）の木窓の製造工程

を見学し意見交換を実施した。

## 9. 共同設備部会

### 【給水ポンプシステム委員会】〔SDGs 目標：12〕

- (1) 給水ポンプシステムの維持管理の重要性啓発活動として、東管ニュースの10月号に、予防保全・保守点検の重要性について広告を掲載した。
- (2) 通信機能を有した、「常時監視型」及び「随時点検型」の監視機能付き製品のBL-bs基準の実施に協力した。
- (3) 岩手県高円万寺浄水場施設を見学し水道施設に関する見識を深めた。
- (4) 「アメニティ Cafe」充実に向け、写真データの更新の有無を各委員に確認し、一部の写真を差し替えた。

### 【給水タンク委員会】〔SDGs 目標：11〕

- (1) 給水タンク安心支援サービスについて、登録状況データをBLより会員各社へ送付。
- (2) 水槽の重要性の広報活動として、水槽の維持管理の重要性について「マンション管理センター」の月刊誌(8,9月号)に執筆。また、防災を切り口とした給水タンクの有効性についてPR活動検討を継続。加えてカーボンニュートラル貢献や雨水利用などの用途について調査実施。
- (3) 「アメニティ Cafe」について、「水槽診断士」⇒「貯水槽診断士」に表現の統一など継続的改善に取り組み。

### 【エレベータ委員会】〔SDGs 目標：9、12〕

- (1) BLから提示された優良住宅部品認定基準の改正案に対し、意見・要望を取りまとめ提出した。
- (2) 今後のエレベーターの在り方について、SDGsを意識して考えるための機会の創出を目的とし、「東京都水道歴史館」を見学した。
- (3) 「アメニティ Cafe」サイト掲載情報の更新について検討、実施した。

## 10. アウトドア部会

### 【屋外収納ユニット委員会】〔SDGs 目標：12〕

- (1) 鋼製物置に求められる地震力に対する耐久性を把握、分析するにあたり、実大物置による加振試験を行い、その結果を踏まえて安全に物置の使用を続けるための点検項目や、被害をやわらげるための工夫、案内等を検討した。
- (2) (一社)プレハブ建築協会の要請により、応急仮設住宅向けの屋外収納ユニットの生産供給可能数について調査し集計結果を報告した。

### 【郵便受箱委員会】〔SDGs 目標：9、11、12〕

- (1) 郵便受箱の年度出荷データを集計して動向分析を行った。

### 【宅配ボックス委員会】〔SDGs 目標：7、8、9、11、12〕

- (1) 宅配ボックスの年度出荷データを集計して動向分析を行った。

- (2) 国土交通省と経済産業省が4月を「再配達削減PR月間」として宅配便・eコマース・通販の事業者と共に再配達削減を推進することを共有するとともに、調査事業として住宅局（マンション・賃貸住宅担当）などとの意見交換を実施した。
- (3) こどもエコすまい支援事業、子育てエコホーム支援事業への対応と実施内容を共有した。
- (4) 子育て支援型共同住宅推進事業に「宅配ボックス設置補助事業」が新設されることになり、その対応と実施内容について共有した。

## 11. 換気・配管システム部会

### 【換気ユニット委員会】〔SDGs 目標：3、7、12、13、14、17〕

- (1) 高气密住宅の増加に伴い、レンジフード排気の負圧状態における玄関ドアの開閉重量の増加が問題になりつつあり、対策方法の発信、各社商品への活用を目的として、玄関ドア開閉重量調査を実施し、また協力をいただいた長野県・ホクシンハウス様をお招きし取り組み内容の発表を含めた意見交換会を実施した。
- (2) 国等の建築物省エネ法、ZEHなど省エネ性能向上に関する施策や、関連する規制、補助金、税制などの動向に関わる情報収集、課題把握と対応方策の検討を実施した。
- (3) TOTOミュージアム（福岡県北九州市）で見学会、また委員会としての意見交換を実施した。

### 【配管システム委員会】〔SDGs 目標：9、12、17〕

- (1) BL部品普及のためのBL保険のパンフレット作成、公開  
使用者がBL保険について深く理解出来るように、配管システムにおける保険適用範囲の確認を行い、あわせて保険の概要、事故事例を基にBL保険のパンフレットを作成し、アメニティCaféに「BL保険のご紹介」として掲載、公開した。
- (2) 講演会の実施（8月31日、WEB開催）
  - ① テーマ「住宅関連のLCA最新動向」
  - ② 講師：早稲田大学 創造理工学部 伊坪徳宏教授

## VII. その他の委員会等

### 1. 窓の熱性能審査委員会〔SDGs 目標：7〕

- (1) 「WindEye」へのフレームデータ登録に必要な知識についての講習会を2回開催した（第1回(7/5)：3社5名、第2回(11/29)：3社5名、計6社10名が受講）
- (2) 「WindEye」操作性向上のため画面構成や操作手順の見直し、窓の熱貫流率等からおすすめ製品を逆検索する機能（逆引き計算機能）の公開、玄関ドアの性能証明書における省エネ基準適合への対応など改良を行った。
- (3) 「WindEye」の継続的な発展のため、JIS A 2104(住宅用窓のエネルギー性能-計算手順)に基づく性能の提示に向けてWEP計算機能追加の検討を開始した。
- (4) 新規登録数
  - ・フレーム：168窓種、1,391断面
  - ・ガラス：基礎データ5点
  - ・遮蔽物（ブラインド）：追加251点



## 2. 統計ハンドブック編集PJ〔SDGs目標：12〕

住宅部品に係る市場動向と市場規模の変化を的確に把握するため、統計データを時系列に収集・整理し、今後の市場動向を加味した「2023年版 住宅部品統計ハンドブック」を作成し、会員をはじめ関係団体等に広く情報提供した。

- ・住宅部品（商品収録数：59分野92品目）の統計データ。
- ・業界統計等で金額のない品目は単価を推定し金額規模を算出。
- ・原則として国内全出荷数量のデータを掲載し、住宅用推定比率より、住宅部品の全体市場規模を算出。

注) 各部会・委員会等の活動のうち、2023年度事業計画の立案や、「住宅部品統計ハンドブック」へのデータ提供などの共通事項については、個別の記載を省略した。